

令和3年10月 上市町教育委員会 定例会 議事録

日 時 令和3年10月25日(月) 午前9時00分～午前10時14分

場 所 上市町役場2階 第1会議室

1 開会

2 教育長の報告

10月3日に町議会議員選挙が執行され、10月19日に臨時議会が開催、学校のあり方検討特別委員会が全議員で構成された。今後、色々のご意見をいただけるものと思っている。町長としては今年度中に地域での説明会を始めたいとのことである。

来年度予算編成の教育委員会としての重点要求として、「図書館学習室の整備」「給食費の定額化」「部活動の地域移行」の3点挙げた。

10月15日に、東京2020オリンピック柔道団体の銀メダリストである向井翔一郎選手が来町され、町長に大会の報告があった。町武道館でのパブリックビューイングについての御礼、コロナ禍の中でのオリンピック開催への感謝の言葉があった。みなさんの声援を受けて、パリを目指していきたいとの思いに至ったとのことであった。

3 教育委員会定例会 会議記録の報告

4 議事

(1) 小学校のあり方検討について

(教育長)

県内では複式学級を単費で講師を充て解消している自治体は僅かであるが、町としては何とか講師を確保して今後も解消していきたいと考えている。

課題として、この先の人口減の予測が難しく、例えば令和9年度に統合としても令和14年度には現状であれば町全体で2学級程度の規模となる。果たして1学年何学級の校舎を建てればよいのかが見えない状況にある。

(委員)

古い校舎を壊して建て替える必要はあるのか。他の校舎に分散し、使える校舎を使っていけばいいのではないか。周辺地区を維持していくのであれば、今は無駄遣いをせずに、あるものを活用していくという考えもあるのではないか。

(委員)

エアコンの早急な整備などと同様に、講師の確保も町村だからこそできることだと思う。ただ実際に教員不足があり、予算もかかっている。

児童数減により、統廃合を繰り返すことは避けなければいけない。長期の見通しが必要だと考える。町としては人口増を、教育委員会としてはできるだけ統廃合を避ける。出来るだけ維持しながら、理想の統廃合の形へと慎重に進んでいく必要がある。

(教育長)

長期的な見通しを立てる必要はあると思うが、残念ながら見通せないところがある。

(委員)

今年の出生の見込みはどうか。

一 昨年同程度と聞いている。

人口が減れば予算も減る。町としての人口増対策、経済対策をどうしていくのか。その議論が無ければ、町に小中1校となってしまうのではないか。

(委員)

児童数からすると1学年2学級ということが予測されるが、今すぐにどうこうというのは難しいと思う。

子どもが学級に2,3人でも同じカリキュラムをやらなければならない、今は体験、学び合いということから考えると、15~20人いたほうが良いと思われる。一昔前は教科書とノートでの授業であったが、今はそれ以上の準備が必要となっており、このために専科教員の配置もされてきている。

今ある学校の中で人数を調整していくのが良いのではと思う。人数が少ないのは良い面もあるが、人生の中で色々な人がいるということを経験していくことも大切なことと思う。

(委員)

一旦分散したとしても5~10年後にはまた統廃合ということが出てくる。出来るだけ統廃合が2,3回とならないように、1回で済むようにできないものかと思う。

(委員)

住宅は小学校がどこにあるのかを基準に建てられる。これから住宅を建てる人は、その展望が見えないと町外に出てしまう。町としてどうしていくのかがないと人数調整の議論になってしまう。民と公と一緒に知恵を出しながら進めていかなければならない。

(委員)

長期の展望のもと、上市スタイルを維持しながらあり方を検討していく必要がある。

(教育長)

長期的な展望ということは良くわかる、また統廃合を繰り返さないということも分かる。今が一番難しい時期であり、どのような手を打つか、どのような対策があるか、色々な知恵を集めていかなければならないと感じている。

5 報告・その他

(1) 入学式等の日程について

(2) その他

6 閉会